

2014年度バリアフリーデザイン研究会総会議事録

2014年4月15日 19:00～21:00

参加者: 森重、赤城、白木、木崎、深水、
小椋、中村、堤、白尾、大久保、
吉住、前田、濱田、宮川、持田

開会挨拶: 白木さん

会長挨拶: 森重氏

研究会の存続を話し合う

議長選出: 小椋氏

議事録署名者選出: 堤氏

会の成立 : 15名出席、委任状〇〇、会員数50名

議事

1号議案 2013年度事業報告(前田さん)

2号議案 2013年度決算報告及び監査報告(深水氏)

3号議案 当会今後の活動について(森重)

なぜこのような話となったのかの説明

アンケート報告(前田)

参加者からの意見

吉住氏: 最近面白くないので1年半出ていない。当初やっていたことからかなり離れてきている。活動内容をもう少しバリアフリーということに集中してもらえないか。今まで当事者を含めて色々なことに取り組んできたが、組織があるから意見が言えるようになったように思う。このようなグループは他にないと思うので、解散してしまうと今後の公共建築は歯止めがきかなくなるのではないかと。しかし、事務局・トップがいないと組織は動かない。研究会は意味のある組織だから残すべきである。事務局をやってもよいという方がいる限り、やったほうが良い。

小椋氏: 研究会、ヒューマン、UDくまもとで公共の建築にはアドバイザーとして入っているが、色々な視点での気づきがあったので、参加して気づいたことについて例会でフィードバックするとよかった。ただ、活動をすると誰かに負担が行くことについても考えていかなければいけない。

井上氏(大久保氏代読): ぜひ続けてほしい。

大久保: 残してほしい。しかし、問題は2つあると思う。一つは活動そのものの問題。もう一つは事務局としての問題。活動に関しては、以前、対外的に活動ができていたが今はできていない。内部の向上も必要だが、対外的に何かできることをしたほうが良い。熊本市でも色々な取り組みがなされているが、そのようなところに提案できると良いのではないかと。例えば養成講座など。

小椋: やさしいまちづくり講座。西原村でもやった。それを復活させたい。

深水氏: 県の施設を建築する場合は、UDアドバイザー制度を利用するといった仕組みを住宅センターと一緒に作って作った。今後、市町村にも広めるように進めている。県ではUDくまもとにアドバイスをお願いしている。

小椋: UDくまもとは色々な方の視点というところで、とても勉強されている。つつい自分たちの意見を先に行ってしまうがちだが、それを整理してUDくまもとはされているので、そこが良いのではないかと。

持田さん: UDくまもとと最近かかわりが多いが、UDくまもとも研究会と一緒に取り組んでいきたいと考えている

木崎さん: ヒューマンネットワーク熊本とUDくまもとは事業としてやっているが研究会は違う。研究会としての役割を果たし終わったのかもしれない。当然、活動すれば事務局は大変である。それを引き継いでいく必要がある。ヒューマンネットワークHNも引き継ぎ手はいない。しかし、熊本障害条例をつくる会に団体として所属している研究会が無くなっていくとどうなるのだろう。何とか残さないといけないのではないかと。

小椋: 仕事をする上で、住宅改修の話をする時など、研究会のバックがあると話しやすい。最近、役所の窓口の人たちが勉強をされていないように感じる。改修の時の処理も外部に委託されていて、担当によっては必要以上の要求があったりする。

・持田:事業として取り組むか取り組まないかの違いがあるが、研究会がテーマを見つけてそれに予算を付け事業として取り組んでいるHNさんやUDくまもとと一緒に活動する形態が良いように思う。

前田:吉住先生の面白くないという意見についてだが、白木さんがいらしたころのようにはできない。参加者も少なく、県からアドバイスの依頼があっても出ていけないこともある。出ていけないと声もかからなくなる。今のままでは続けていけない。それで勉強会中心になってしまった。

・吉住:この組織の事務局の構成とか執行部の動きがわからないので何とも言えないが、何かを決めるとき事務局一人では決められないはずである。白木さんがいらしたころと何が違うのか。

前田:例会+役員会で成り立っている。事務局だけでやっているわけではない。事務局には様々な立場な人がいたほうが良い。

森重氏:以前、事業化(NPO法人)にするかどうかということが話に上がったことがあった。事業の継続性を求めるかどうかで判断し事業化しなかった。資金繰りをどうするかが問題。今まで財団に申し込んで予算確保していたのは白木さんである。その頃は皆さんが集まっていた。具体的に皆さんができることをあげてほしい。願望と期待だけでは継続は成り立たない。事務局だけでも誰か手を挙げてほしい。

赤城さん:事務局となってもよい。90歳の母がいるので動けない時もあると思うが。

白木:解散ということはばしょくだった。追悼号を読み返して、夫がやりたかったことに社会貢献と研究である。原点に戻る。色々な団体があるが、皆が幸せになるために研究会としては何ができるのか。どうしたいのか。皆がそれぞれの立場でどのようにかわっていきけるのか。自分としては、今後、サポート的なことはやっていけると思う。

濱田さん:自分は研究会としての活動はできていない。検証に参加させていただけたことが良かった。施工業という仕事を通して現場を見ているが、設計者や発注者側の担当者の知識が乏しいがゆえにUDの検討ができておらずに建築が進み、使えない建築物を建てている現状がまだまだたくさんあると思う。その現場をさらにお金をかけて改修している現場が今あるが、これでよいのかと思う。研究会としてはこのような現場をつくらないためにも、建築の担当者が変わっても繰り返し伝えていく立場ではないか？

白尾さん:メールを見て鹿児島から出てきた。研究会の役割。意味。願望だけでは存続できないことに気づかされた。鹿児島では魅力のない研究会のような組織があったのでそちらには参加せずに熊本の活動に参加していた。

中村氏:20数年前作業療法士を取得しこの会に入った。そこにいる方の使いやすい高さなどを一緒になって考えてきた。今まで研究会の一員ということに甘えていた。森重先生から白木さんの思いを聞かされ、思い出された。ほかの団体との共同、一緒にやれる団体とやっていくのもよい。年齢が上がったなりの対応をしていかないといけない。

堤氏:名ばかりの副会長で申し訳ない。社会福祉士の立場で仕事をしているが、仕事があり、なかなか参加できない。13年前に入った際、バリアフリーデザインの視点について勉強になった。この視点をなくしてよいのか。誰かにやってもらえば良いのか？他人に擦り付けるのはどうか。副会長は若い世代に引き継ぐためにという思いを受け引き受けたところがあるので、何かしら手伝いをする必要があると思う。しかし、自分自身は日中の活動には出られないので、このまま副会長職をしてよいのかという思いもある。研究会については、この視点を学んでほしい若い世代がいるので継続してほしい。

大久保:目標があると動くのではないかと。年代、出てくる人が固定化されている。アドバイザー育成講座からの入会者が多いと思う。25周年の企画として、何かしてはどうか？

木崎氏:社会保障の現場も人がいない。グリーンコープの鳥居さんと本日は来ている。この会合と一緒に参加するのは3回目である。存続については、続けてほしいと思う。

木崎:アンケートではどちらともいえないに「○」をした。体調のこともあるので・自分にできることは身近なところにいる人に研究会について伝えること。TOTOなどのメーカーとの関わりがある。自分としてはそこのパイプ役になれるとよいと思う。

今後について、存続と決めてよいか？ → 満場一致で存続を決定

それぞれのサポートについて

木崎→TOTOなどのパイプ役になれる

事務局:赤城、深水、濱田

サポート:白木

その他:役員については？そのまま？

吉住:今後どうするのか？を決める必要があるのではないか(氏)

どうなったらこの会が維持できるのか？を考える日を設ける

- ・ 次に集まる日を決める:6月17日(第3火曜日)
- ・ 総会の報告とこの会の案内をする
- ・ 連のな会員についてどうするか？ナブコさんは退会することを聞いている

50名の会員(過去3年間払っている人46名)

続ける意思の確認をする

持田:来年度の地域貢献活動へ参加する件

昨年度、急遽取り組んだ活動で、UDくまもとを主体として建築士会の地域貢献活動に申請し、子飼商店街で活動をしてきたが、今年度も継続を考えており、今年度は主体をバリアフリーデザイン研究会で申請し活動したいと考えている

子飼商店街でユニバーサルサインを取り入れたマップづくりを熊大の学生中心に進めているそのアドバイザーとして昨年度も研究会から小椋、前田に参加してもらっている

大学と連携し活動することは、今後の研究会の活動の進め方として良いように思う大学と連携し予算を取り、一緒に活動することを考えたい

持田:企画担当として頑張りたい